

# 福島市松川地区

## 1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 水稲 + 大豆による大規模稲作経営体として、経営の安定を目指す。
- 大豆の単位収量向上を目指す。(約120kg/10a→150kg/10a)
- 収量及び加工適性に優れた新品種「里のほほえみ」の導入



## 2 生産概要 (中心的な担い手の概要)

- 【作付面積】水稲：44.0ha、大豆：8.2ha (R3)
- 連作障害への対策として、緑肥 (麦のすき込み) を実施。
- 【主な大豆栽培品種】  
タチナガハ4.8ha、香り豆4.2ha、その他0.2ha 計9.2ha (R5実績)



## 3 取組のポイント (モデルとして構築する取組)

### <需要に応じた生産を徹底>

- 実需者の要望をもとに、作付けする品種を決定。現在、里のほほえみの加工適性について、意見交換会の実施を予定。

### <連作障害、湿害の克服及び収益性の改善を図り、単位収量の向上>

- 湿害対策として、畝立て同時播種技術の確立
- 水田大豆輪作による連作障害の克服 (大豆→大豆→水稲)
- 低コストの追求と収益性の改善 (生産費調査)



## 4 取組成果

### <作付面積の拡大>

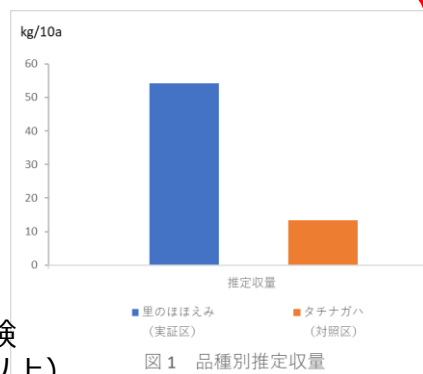
- 面積：水田：2.8ha 畑：5.4ha (R3) 計8.2ha  
水田：3.4ha 畑：5.8ha (R5) 計9.2ha

### <小畝立て同時播種技術による初期の湿害回避を実現>

- 播種後断続的な降雨の中、発芽及び出芽不良を最小限に止めることができた。

### <新品種・新技術導入等実証ほの設置>

- 新品種・新技術導入等実証ほを設置し、タチナガハと里のほほえみを試験栽培した。開花期 (7/24~8/12) における猛暑日 (最高気温35℃以上) が15日間、降水量が30.5mmという高温乾燥条件下で、里のほほえみは推定単収約54.2kg/10a、タチナガハは推定単収約13.4kg/10aであった。(図1)



## 5 課題 (6年度のポイント)

- 高温乾燥対策として、播種時期を分散し、収量確保を目指す。
- 雑草及び連作障害対策として、優占草種に応じた除草剤の選択、適期防除を指導するとともに、ブロックローテーションを実施することにより、収量の向上を目指す。